

TAX・経営法解説

社員に制服を支給 私服利用可なら?

華やかなユニフォームから事務服、作業着など、世の中には業種・職種によってさまざまな制服がある。制服には広告効果があるほか、「あこがれの制服」ともなれば従業員のモチベーションアップにもつながる。

従業員に制服を支給または貸与する場合、給与所得として源泉徴収する必要はない。従業員が制服の支給で得る経済的利益は一種の反射的利息で、給与所得者に特別な利益を与えるものではない。また、給与所得者の役務提供に対する対価という性格も極めて希薄だからだ。

ただし、気を付けたいのが、いくら会社が「制服」としても、税務上も制服と認められるかどうか



かは実態によるということ。実は、ここでいう非課税となる制服には一定の決まりがある。

その事務服、作業服などの貸与や支給が非課税とされるためには、①専ら勤務する場所において通常の職務を行ううえで着用するもので、私用には着用しないあるいは着用できないものであること②事務服等の支給または貸与が、その職場に属する者の全員または一定の仕事に従事する者の全員を対象として行われるものであること——が必要だ。

②についてさらに厳格にいえば、着用する者がそれによって、一見して特定の職員または特定雇用主の従業員であることが判別できるものであることが条件となる。

会社から「制服」として支給され、職務の遂行に当たり現に着用されているものであっても、こ

れらの要件を満たさないものは非課税とされる制服には当たらない。

たとえば、私服にもなり得る一般的なスーツを支給した場合には、源泉徴収の必要があるというわけだ。

相続で得た株式 取得費算出に注意

街の書店でも、確定申告関連コーナーが目立つようになってきた。平成21年分の所得税の確定申告がいよいよ2月16日にスタートする。

ところで、不況のさなかにあっても、昨年株取引でもうけた人は多いだろう。サラリーマンで、普段は会社の年末調整で済んでいる人でも、年間を通して株売買のもうけが20万円以上あるなら確定申告が必要だ。

申告では、各自「株式等に係る譲渡所得の金額」を出す必要がある。これは原則として「総収入金額(譲渡価額) - 必要経費」で求める。必要経費とは取得価額、譲渡費用、負債利子の合計のこと

いうが、株式の取得の仕方によって意外とややこしくなるのが取得価額だ。

通常、株式の取得価額は①取引報告書②取引金融商品取引業者などの顧客勘定元帳③本人の控え(日記帳や預金通帳)――により確認した金額になる。

株式が相続で取得したものなら、取得価額は被相続人が株式を取得したときの取得価額を引き継ぐのが原則。しかし相続による取得では、被相続人が株式の名義変更をしていなかった、ということも多い。加えて取得価額が分かる資料もなく、被相続人がいつ取得したのか把握するのも難しければ判断のしようがない。

そこでこのケースでは、「相続人が名義書換をした日」を取得時期としてその株式の取得価額を算定して差し支えない。

また、従業員持株会から株式を引き出して取得したという場合は、その株式を従業員持株会が取得したときの価額が取得価額。しかし従業員持株会の資料では取得価額や取得時期が不明という場合、従業員持株会から引き出したときの名義書換日を取得時期として、株式の取得価額の算定をしてもOKだ。

消費税の免税事業者 合併新設法人はダメ

景気低迷が続く昨今、中小企業経営者の多くが資金繰りに困窮している。とくに設立当初は、得意先も少なく、資金も潤沢ではないので、ギリギリの経営状態に陥ることもしばしば。

こうした、厳しい経営状態にある中小企業の納税負担を軽減するため、消費税においては「事業者免税点制度」が設けられている。これは、基準期間、つまり前々事業年度の課税売上高が1千万円以下であれば、消費税の納税が免除されるというもの。新設法人の場合、前々年度の課税売上高が存在しないため、設立1期目および2期目は原則として免税事業者となる。

ところが、新設法人でも免税事業者となれない

ケースがある。それは、合併により新設された法人で、合併前の法人各社が前々事業年度における課税売上高1千万円を超えていた場合。

また、会社分割などにより新たに設立された法人(新設分割子法人)の場合も、分割前親法人の前々事業年度における課税売上高が1千万円以上であれば、免税事業者となることはできない。

一方で、個人事業者が法人成りした場合、個人事業者だった当時に売上高が1千万円を超えていても、免税事業者となることができる。

ところで、免税事業者である新設法人が多額の設備投資を行った場合や、輸出業者のように売り上げにかかる消費税額よりも仕入れにかかる消費税額が多かった場合など、消費税の還付が生じる場合には、課税事業者を選択することで、その還付を受けることが可能。その場合、課税事業者となるとする課税期間の開始日の前日までに、「消費税課税事業者選択届出書」を所轄税務署長に提出することが必要だ。

藤間公認会計士税理士事務所

(株)船井財産コンサルタント東京銀座	(株)日本相続コンサルタント
(株)日本財務コンサルタント	(株)日本人事コンサルタント
(株)日本医療コンサルタント	(株)日本同族経営研究所
相続手続支援センター東京中央	TOMA M&Aセンター
中央区の無料相談は「明るく・元気・前向き」な専門家集団にお任せ下さい!	
公認会計士7名・税理士24名・国税局OB4名・社会保険労務士6名・	
経営コンサルタント10名・医療経営コンサルタント10名ほか総勢140名!	
経営・税務会計・財務・人事から、資産有効活用など、各分野のプロフェッショナルが集結する、総合コンサルティングファームです。	
★情報満載ホームページ! http://www.toma.co.jp メルマガも配信中!!	〒103-0028 東京都中央区八重洲1-4-21 TEL 03-5201-6555 FAX 03-5201-6789 E-mail : toma@toma.co.jp

T&D



企業がつづく
チカラになりたい。
DAIDO 大同生命

企業のために、経営者とともに。
東京支社/東京都中央区日本橋2-7-4
TEL 03-3241-4343

税理士唐川満事務所

税理士 唐川 満
税理士 木下 信宏
税理士 福本 道雄

〒104-0045 東京都中央区築地6-23-11
TEL : 03-3543-7934 FAX : 03-3545-0088

東京商工会議所にご入会ください

~~法律に定められた経済団体として23区に約8万の会員が加入しています~~

110の経営支援メニューがビジネス拡大を応援します



■新規取引先の開拓や販路拡大
■資金繰りをはじめとする経営支援…その他、経営のお悩み事をご相談ください

まずはお問い合わせください

東京商工会議所中央支部 (TEL 03-3538-1811)
〒104-0061 中央区銀座1-25-3 中央区立京橋プラザ3階

納税通信

東京国税局管内特別号外
中央区エリア版 京橋税務署編

平成22年2月15日発行
©エヌピー通信社

『納税通信』(東京国税局管内特別号外 中央区エリア版)は、「税務行政当局と納税者の相互理解を深めるための情報紙」として、中央区内全域の『日本経済新聞』(宅配分)に不定期で折り込み配布している無料紙です。発行に際しては京橋税務署に取材面でご協力いただきました。また、京橋法人会、京橋青色申告会、京橋納税貯蓄組合連合会、東京税理士会京橋支部はじめとする税務協力団体や、地域の経営者を強力にサポートする税理士の先生方、さらには地元に密着した活動を展開する経済団体、保険会社などに、ご賛同およびご協賛をいただきました。紙上にて御礼申し上げます。

【エヌピー通信社・編集局企画編集室】

くお知らせ
本紙『納税通信』の通常号は
毎週月曜日発行です。

年間購読料(前納・送料共)36,700円

購読・広告申込 www.nouzei.jp
03(3971)0114(直通)

驚くべき情報収集力

国税庁がさきごろ公表した資料によれば、平成20事務年度に実施された相続税の実地調査件数は1万4110件。このうち、1万2008件で申告漏れが指摘されており、申告漏れ割合は実に85.1%にも上る。つまり、調査に入れば、ほぼ申告漏れが指摘されていることになる。それだけに、相続税調査における「ターゲット選定」の精度は非常に高い。

こうした高い精度の陰には、入念な「机上調査」の存在がある。机上調査とは、実地調査に先立つて行われるもので、限られた人員で効率的な実地調査を行うための情報収集といったところだ。机上調査で



▲申告書のウソも税務署はお見通し

厳しさ増す相続税調査

法人税調査と異なり、相続税調査はそれほど多く実施されているわけではない。そのため、納税者にとってみれば、相続税調査は「謎のベールに包まれた存在」だ。それでも増して近年、厳しさを増しているとの指摘もあり、調査手法や段取り、調査先の選定方法などはやはり気になるところだ。最近の相続税調査の現場に迫った。

というのだ。

実際、同20事務年度の実地

調査でも、被相続人の自宅の

金庫から「財産管理メモ」が

見つかった。

相続人A氏は、被相続人の

生前の収入や資産状況か

ら、相続税の申告が必要と想

定されたにもかかわらず無申

告だったことから、被相続人

の自宅を実地調査したところ、自宅の金庫から被相続人

自筆の財産管理用と思われる

メモが発見された。調査官

は、このメモの内容と、A氏

が提出した申告書の内容に非

違があったため追及したところ、被相続人が経営していた店舗の倉庫に、数億円の現金の入ったダンボールが保管されていることを把握。さらに、複数の金融機関に多額の預貯金、有価証券の預け入れがあったことも分かり、最終的に7億3500万円の申告漏れ財産が把握された。その結果、重加算税3100万円を含む2億7200万円の追徴課税となつた。

調査官は、自宅内のあらゆる情報から、申告漏れ財産の現物把握に結び付くものはないか、常に目を光らせていく。香典帳や芳名帳、年賀状、アドレス帳、日記帳などはもろんのこと、トイレを借りる際に室内や廊下をさりげなく確認し、金融機関名の入ったカレンダーなどがないかと確認。それこそ、メモ帳のたぐいまで残らず確認する。というのも、被相続人が財産に関する自筆のメモ書きを残しているケースが多い。

社、その他取引金融機関の名前が出てくることもあるのだ。

株取引がないはずなのに故

人のアドレス帳から証券会社

の担当者の連絡先が見つかっ

たり、取引のないはずの金融

機関から年賀状が届いていた

りなどすると、調査官は鋭く突っ込んでくる。ささいな情報から、課税漏れ財産の現物を把握するのが調査官の仕事なのだ。

被相続人のメモから数億円を発見も

実地調査が始まると、預金通帳や株券、印鑑などの保管場所を尋ね、現物を確認する。また、タンスや金庫、机の引き出しなどはその場で開けてもらい、中にあるものをすべて確認。それこそ、メモ帳のたぐいまで残らず確認する。

調査が、被相続人の自宅である。実地調査が始まると、預金通帳や株券、印鑑などの保管現物把握に結び付くものはないか、常に目を光らせていく。香典帳や芳名帳、年賀状、アドレス帳、日記帳などはもちろんのこと、トイレを借りる際に室内や廊下をさりげなく確認し、金融機関名の入ったカレンダーなどがないかと確認。それこそ、メモ帳のたぐいまで残らず確認する。

というのも、被相続人が財産

に関する自筆のメモ書きを残

しているケースが多い。

相続税調査は例年、課税対象者のおおむね3件に1件の割合で行われている。調査が実施されるのは、ほとんどが

相続人の生前から財産を少しずつ自分名義に変更している

ケースも想定されるため、重

要な調査情報となる。

税理士を依頼するなら、地域の我々に！ 東京税理士会 京橋支部

下記の日程で無料相談を実施します。どうぞお気軽にご相談ください。

◆「税理士記念日 税の無料相談」
日時：2月23日 10:00～16:00
場所：銀座駅地下コンコース・松坂屋デパート

◆「平成21年分所得税確定申告の無料相談」
日時：3月3日～15日(土・日を除く) 9:30～16:00
場所：月島区民館(中央区月島2-8-11)

【支部事務局】〒104-0041 東京都中央区新富2-5-10 新富ビル
TEL: 03-3553-1788 FAX: 03-3551-0978
URL: http://www.kyobashi-tax.jp/
E-mail kyobashi@sepia.ocn.ne.jp

京橋納税貯蓄組合連合会

〒104-0041 東京都中央区新富2-1-7 富士中央ビル1階
TEL: 03-3551-1589 FAX: 03-3555-3675